

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

芦別市長 荻原 貢

市町村名 (市町村コード)	芦別市 01216
地域名 (地域内農業集落名)	芦別地区 (新城1、新城2、新城3、新城4、新城5、黄金栄、黄金2、黄金4、黄金8、黄金9、黄金本郷、豊岡、常磐1、常磐2、常磐3、常磐4、常磐5、福住、旭西、旭東、本町北、本町南、上芦別西、上芦別東、野花南1、野花南2、野花南3、野花南4、野花南6、野花南中央、野花南東、野花南共栄、川岸、青木沢)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年1月17日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区の生産体系は、稲作を中心に畑作物や施設園芸作物を組み合わせた複合経営のほか、養鶏を含む畜産業が行なわれている。農業者数555人のうち65歳以上の農業者が約55%を占め、かつ後継者と担い手不足が喫緊の課題であることから、農家一戸当たりの経営耕地面積も13.2haと増加している。また、農地の利用集積率が約90%となっており、新規就農者等への比較的条件の良い農地の確保・提供が難しいことも担い手確保対策の課題となっている。加えて、市域面積の約88%が山林という典型的な中山間地域であり、地区内には通信環境が悪く、農地の形状や面積が歪で小規模な条件不利地が点在している状況にある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

持続的な農業と農畜産物の生産を継続するため、主力作物である水稻の水張面積約1,500haと地域振興作物であるメロンや花きに加え、地域で最も多く作付されている南瓜を合わせた約44haの作付面積の維持・確保に努めながら、労働力の負担軽減や省力化に効果のあるスマート農業を導入した新たな生産体系の構築と、担い手への農地の集約化に配慮した農用地の再分配を進めることができるよう必要な条件整備に努める。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	3,615.03 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	3,615.03 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針	担い手の意見を参考にし、地域計画に基づきながら農業委員会と調整し農地中間管理機構を通じて取り進める。
(2) 農地中間管理機構の活用方針	利用意向調査の結果を基に、農業者と所有者の意向に配慮しながら農地中間管理機構を活用する。
(3) 基盤整備事業への取組方針	農業者の要望を踏まえ、農業の生産効率の向上を図るための基盤整備事業への取組を土地改良区と適宜協議していくこととする。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針	JAや農業委員会、農業生産組合等と連携し、地域内外から多様な経営体を募集するなどして、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針	農家戸数の減少による地域内の労働力不足の解消と農作業の効率化を図るため、そばや小麦等の収穫作業を地域の機械共同利用組合等へ作業受委託を進めることで、遊休農地や耕作放棄地の発生防止にも努めていく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

①鳥獣被害防止対策	✓	②有機・減農薬・減肥料	✓	③スマート農業		④畑地化・輸出等		⑤果樹等	
⑥燃料・資源作物等	✓	⑦保全・管理等		⑧農業用施設		⑨耕畜連携等		⑩その他	

【選択した上記の取組方針】

- ② 環境保全型農業直接支払交付金を活用し、環境負荷低減等への取り組みを実施する。
- ③ 農作業における労働力の負担軽減や作業効率を図るため、スマート農業の導入を検証する。
- ⑦ 中山間地域直接支払制度、多面的機能支払事業を活用し、耕作放棄地や遊林農地の発生防止対策を検討する。